



# やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

## 足るを知る ～あるあるづくしの薦め～

校長 萩原 哲哉

はじめて「ヒューマン」の英単語を学んだ授業、英語の先生(学級担任でした)が「人間というのは、いつも『不満』を持つ生き物だからねえ。」とおっしゃったのを、数十年経った今でも覚えています。黒板に書かれたそのスペルは、ローマ字読みで「human・ふまん(不満)」と読めました。反抗期の真っ最中、親が、学校が、世の中が、…と、あちこちに針を飛ばし、さまざまな不満を抱えていた頃です。

「人は不満をもつ生き物」——「不満」というと少々響きが強くなってしまいましたが、「物足りない」と言い換えてみると、なかなかの射た意味になります。「鳥はいいなあ。自由に空を飛べて。人間にはなぜ翼がないのだろう。」という不満・物足りなさから、飛行機が生まれ、「どうにかして遠くの人と話ができればなあ。」から電話機が誕生し、「日没後は暗くて危ないなあ」から、たいまつ、提灯、電灯、…が発明されました。まさに「必要は発明の母」です。「不満」に「希望」が加わると、それは「未来」になるのですね。

不満を持つことは「human」である以上、仕方がないことです。戒めたいことは、「不満」で思考を止めてしまうこと。「不満」の向かう先が、何事かへの批判で終始したのでは、何も生まれません。「12カ月あった令和2年度が、9カ月になった。失われた期間をどうするのか。」「非常事態宣言が出されているのに、なぜ外出するのか。」正しさを楯に、他者を責める風潮さえ見られます。

「あれができない」「これが手に入らない」と、ないないづくしの中であればこそ、見直したい言葉が「知足」。老子の「足るを知る。(十分満ち足りていることに気付きなさい)」が語源です。身分や財産といった外的要因ではなく、自分の内側にあるもの(命、志、考え方)の素晴らしさを理解せよ、という意味と捉えたいと思います。

だから今こそ、「あるあるづくし」——自分が持っているものを見つめ、持っていることに感謝し、それを十分に生かし、自分がすべきこと・できることを見極めていく——。今、必要なことの一つであると、考えます。健康な体、住む家、(短くなってしまったけれど)9カ月の時間、…たくさんの「あるもの」に気付けます。失われたものばかりではありません。「あるもの・与えられているもの」に気付き、感謝しつつ、さあ、「いまから ここから」スタートです！



【あいだみつを氏の言葉から】